

6月定例議会
一般質問
@岡山県議会
(2012.6.20)

一問一答方式に
初挑戦!

小林孝一郎

岡山県議会議員

暮らしと未来に責任を持つ政治

防災対策

干拓地が広がる県南児島湾周辺では、南海トラフ巨大地震で、液状化や農業用ため池の決壊による浸水、住宅家屋の倒壊など甚大な被害が想定される。3月に中国5県及び中四国9県が締結した広域支援協定を、**具体的かつ実効性あるレベルにまで高めておく必要がある**。また、中四国地方で同時被災となる可能性があり、**広域被害を前提に、全国規模での支援体制の構築を図る必要がある**。



(知事) 3月締結の協定を受け、実効性のある体制を構築するため、今年度から、中国5県の担当者と構成されるワーキンググループにおいて、物的支援や医療支援等の具体的な運用など協定具体化のための検討を行うとともに、香川県との間では、防災訓練の相互参加や広域支援要領の作成について協議を行っている。

本年5月、全国知事会による広域応援に関する協定が締結され、ブロック間の応援体制の確立や知事会の体制強化などが決定された。今後、こうした枠組みを活用して、大規模災害時の実効性ある広域支援体制を構築していく。

地方分権改革

中国地方知事会で、特定広域連合の設立に向けた準備を進める合意に至ったが、知事は一貫して「道州制こそが、究極の地方分権改革の姿」と発言してきた。今回の特定広域連合の合意が、将来の道州制への移行に向けたステップとなりうるのか。また、広域連合では移譲された国の権限がどう生かされ、生活や産業構造がどう変わるのか、さらに、この枠組みが第3次おかやま夢づくりプランの実現にどのような役割を果たすのか、より具体的に情報発信すべきだ。

(知事) 現在の都道府県制度の下での共同処理の仕組みである広域連合と、都道府県を廃止し新たな広域自治体を設ける道州制とは異なる制度で、直ちに道州制やその区割りに結びつくものではなく、道州制以降へのステップとは考えていない。

お話の通り、住民の視点に立って、生活や地域産業への影響、さらには第3次おかやま夢づくりプランとの関係などを分かりやすくお示しする必要がある。広域防災や広域医療に係る事務を持ち寄ることで、大規模広域災害への対応力向上や、ドクターヘリによる迅速で効果的な活動、経済産業局の事務・権限を受けることで、これまで以上に地域の実情に沿った中小企業対策等が可能となり、プランに掲げる安全・安心な地域づくりや発展につながる産業づくりに大きく寄与すると考える。

九州新幹線開通効果

九州新幹線開通から1年が経過したが、九州地方からの宿泊客は、近畿地方に目が向き、岡山が「飛び越されている」感が否めない。本県における開通効果をどう分析しているのか、また、九州をはじめ幅広い地域からの誘客促進のための強化策をどう考えているのか。

(知事) お話の通り、観光庁宿泊統計調査によると、九州からの宿泊客は1割弱程度の増加で、内訳は、ビジネスが増加、観光が減少しており、要因として多くが近畿方面等に流れていることが考えられる。

今後、いかに岡山を目的地とした観光宿泊客を増やしていくかが課題で、特にJR各社とタイアップし、県内観光地を巡るツアーを造成することが有効であることから、九州方面については、観光プロモーションや修学旅行の誘致に併せ、岡山ならではのグルメや歴史・文化を体感できる旅行商品の造成や、本県と九州各県の観光連盟との連携による相互の送客促進を図るなど、関係団体と一体となって、観光宿泊客の拡大に努める。

6月21日山陽新聞に掲載されました！

難病患者の就労

県難病相談・支援センターが相談に対応した難病患者の昨年度の就労実績と県内の就労を希望する非就労者はどれくらいか。

また、就労支援専門相談員とハローワークとの連携の強化や、企業に対する難病のマイナスイメージの払拭と助成金の周知徹底など、積極的な支援を強化すべきだ。



(保健福祉部長) 23年度は29件が新たな就労に結びついた。また、県内の就労を希望する非就労者は約1300人と推計される。

就労支援にあたっては、労働局や経済団体など連携し、情報の共有を図るとともに、相談員がハローワークに同行するなど、きめ細やかな相談・支援に努める。

今年3月には雇用者向け啓発資材を作成し、関係各所に配布した。難病患者の賃金の一部を助成する制度の紹介と併せ企業関係者の難病への理解を促進し、患者の就労支援に努める。

医療情報ネットワーク整備

2月議会の答弁では、24年度をめぐりに稼働させるとのことであったが、順調に進んでいるのか。また、今後の具体的なスケジュールはどうか。さらに、25年度までの財源は地域医療再生基金だが、基金終了後のランニングコスト等の財政措置はどのような形を予定しているのか。



(保健福祉部長) 昨年度、大学や病院協会、医師会で構成される検討委員会において、システムの概要が決定され、年度内の稼働に向けて、概ね順調に進んでいる。将来にわたりネットワークを運営するため、法人格を有する地域協議会を設立する予定で、県医師会、県病院協会および県による設立準備会を立ち上げ、基本機能については年内に稼働する。なお、地域医療再生基金終了後の運営経費については、参加医療機関からの利用料を充てることとしている。

6月21日山陽新聞に掲載されました！

医師確保総合対策

岡大医学部の地域枠は、一般の合格者と同じ学力の生徒を採ろうとすると定員を満たすことが難しい。選抜方法を見直すなど、大学と定員充足に向けた抜本的な対策を講じるべきだ。また、自治医科大学卒業医師の定着率が全国平均を下回る原因は何か。定着率を上げるためにどのような対策が必要か。



(知事) 22年度から、岡山大学医学部の地域枠が定員を満たしていないことから、県では、大学と対応を協議し、26年度から、地域枠について推薦入試に変更する。

また、自治医科大学卒業医師の低い定着率については、本県では、卒業後の義務年限中は、へき地医療拠点病院での勤務が中心で、へき地診療所での勤務が少なく、地域の保健医療福祉関係者等との連携が十分でなく、地域医療の魅力を実感できていないこと等が考えられる。今後、義務年限中の勤務形態等を見直し、地元定着率を向上していく。

6月21日、毎日新聞に掲載されました！

一緒にどうです？

● 語らいましょう！

お話聞かせてください
座談会大好きです

● 歩きましょう！

チラシを配ってます
いい運動になります

● ほのぼの交流会！

イベントやっています
連絡ください

小林孝一郎

- 生年月日 昭和52年8月8日(34歳)
- 略歴 岡山大学医学部医学科 卒業
岡山大学病院 第二内科(血液・腫瘍内科)
岡山労災病院 内科非常勤
岡山政経塾 9期生
- 尊敬する人物 三木行治、津田永忠
- 家族構成 妻、長女、次女、長男、次男
- 趣味 ギター弾き語り、ウォーキング

事務所

〒702-8035 岡山市南区福浜町15-10 1F

TEL/FAX 086-238-0516

E-mail info@koichiro-k.net

ホームページ www.koichiro-k.net

Facebook 小林孝一郎

※ブログ、Facebookで情報発信しています